



NS Solutions

2007年3月期 決算説明会

2007. 04. 27

代表取締役社長 鈴木 繁

新日鉄ソリューションズ株式会社

2007年3月期 連結決算ハイライト



(億円)

	2006/3期 (実績) A	2007/3期 (実績) B	対前年 差異 B-A	2007/3期 (前回公表値) C	対公表値 差異 B-C
売上高	1,483	1,565	+ 82	1,560	+ 5
業務ソリューション	840	926	+ 86	915	+ 11
基盤ソリューション	242	245	+ 3	245	+ 0
ビジネスサービス	401	394	- 7	400	- 6
売上総利益	305	333	+ 28	321	+ 12
<売上総利益率>	<20.6%>	<21.3%>	<+ 0.7%>	<20.6%>	<+ 0.7%>
販管費	-184	-192	- 8	-192	+ 0
営業利益	121	141	+ 20	129	+ 12
経常利益	124	144	+ 20	130	+ 14
当期純利益	75	81	+ 6	73	+ 8

サービス・顧客業種別の売上高 (2007/03期実績)



(億円)

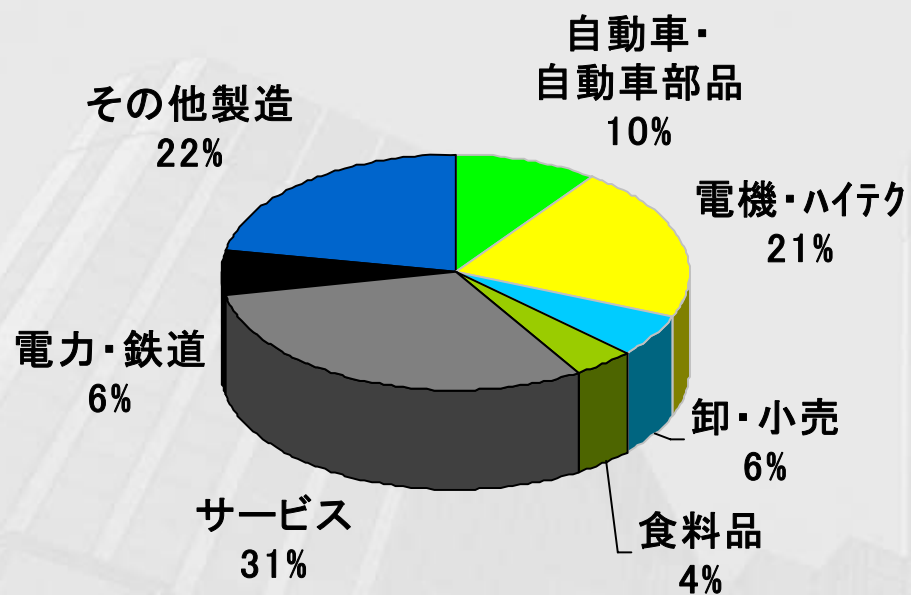
サービス/業種	2006/3期 (実績) A	2007/3期 (実績) B	対前年 差異 B-A	コメント
業務ソリューション	720	786	+ 66	
産業・流通・サービス	366	361	- 5	ほぼ横這い
金融	196	249	+ 53	メガバンク・郵政公社 向けで拡大
社会公共他	158	176	+ 18	衛星・科学分野で拡 大
基盤ソリューション	215	222	+ 7	保守拡大
ビジネスサービス	396	390	- 6	鉄鋼関連で減収、一 般市場向け拡大
単独計	1,331	1,398	+ 67	
子会社等	152	167	+ 15	
合計	1,483	1,565	+ 82	

産業・流通・サービス及び金融向けの内訳 (2007/03期)

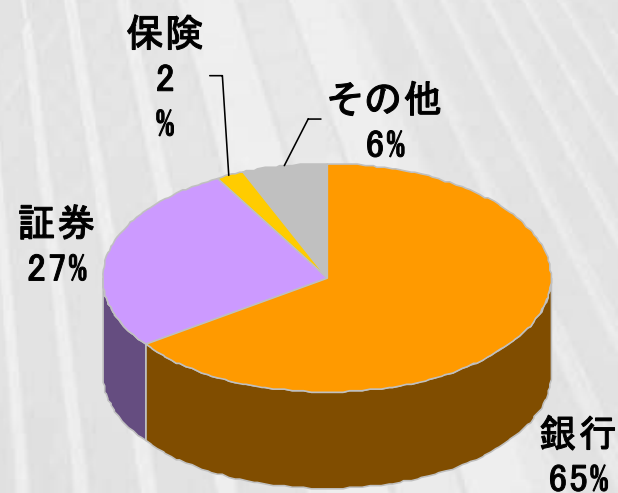


NS Solutions

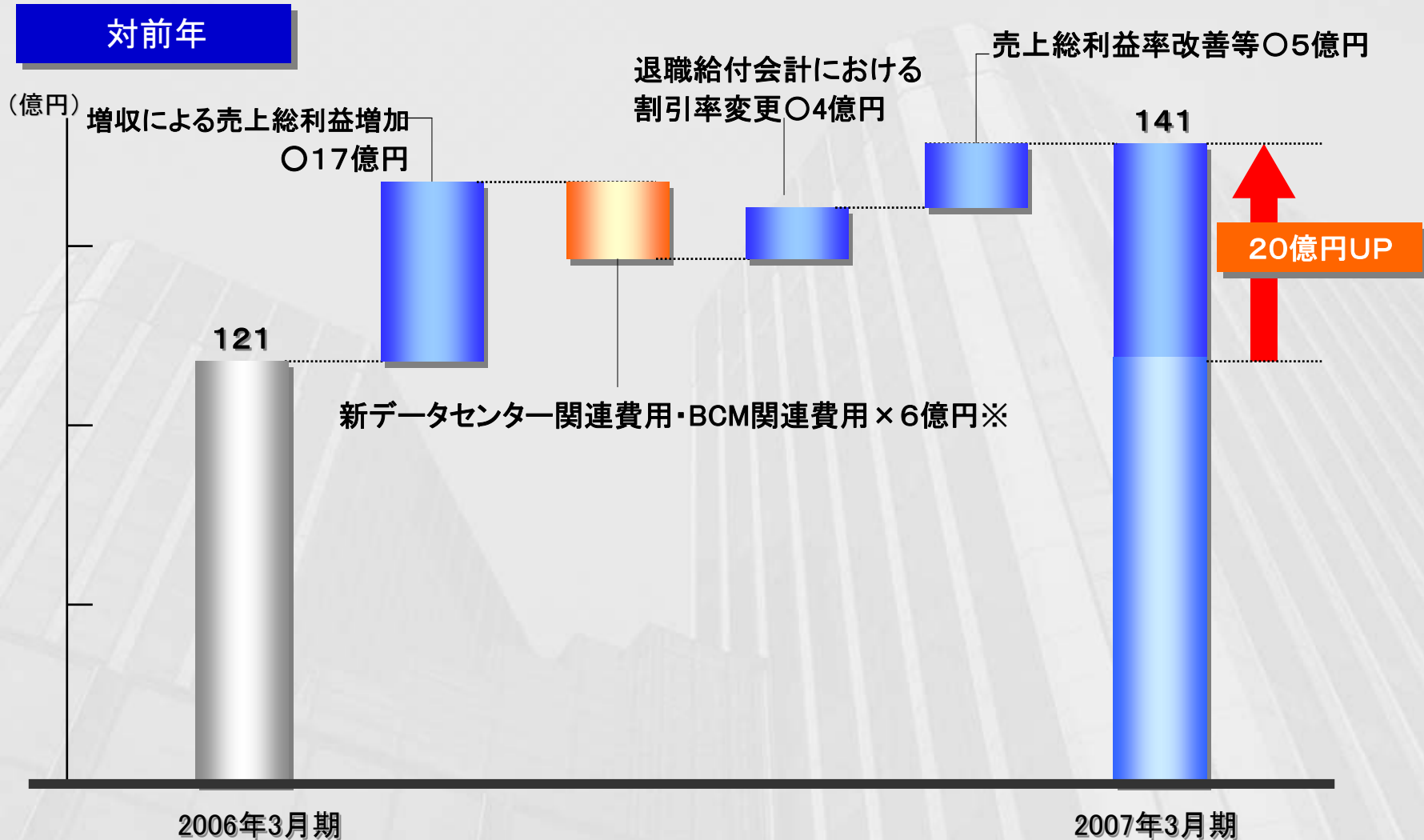
産業・流通・サービス



金融



2007年3月期 連結営業利益分析



※BCM: Business Continuity Management

2008年3月期 連結業績見通し

(億円)

	2007/3期 (実績) A	2008/3期 (見通し) B	対前年 差異 B-A
売上高	1,565	1,650	+ 85
業務ソリューション	926	970	+ 44
基盤ソリューション	245	260	+ 15
ビジネスサービス	394	420	+ 26
売上総利益	333	347	+ 14
<売上総利益率>	<21.3%>	<21.0%>	<- 0.3%>
販管費	-192	-200	- 8
営業利益	141	147	+ 6
経常利益	144	150	+ 6
当期純利益	81	83	+ 2

サービス・顧客業種別の市場認識

サービス・顧客業種	市場認識	市場動向
業務ソリューション 産業・流通・サービス 金融 公共	<ul style="list-style-type: none"> ・流通・サービス業は積極的IT投資により競争力を強化 ・大手製造業では国際競争力強化に向けIT投資は堅調 ・メガバンクにおいて戦略的IT投資が継続 ・郵政民営化に伴うIT投資 ・政府の調達制度改革の動き 	→ ↗ →
基盤ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> ・総じてインフラ投資は堅調 ・ROIを意識した慎重な投資姿勢 	エンジニアリング → プロダクト →
ビジネスサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツ配信等によりサーバラック需要は旺盛 ・アウトソーシング需要は堅調 	→

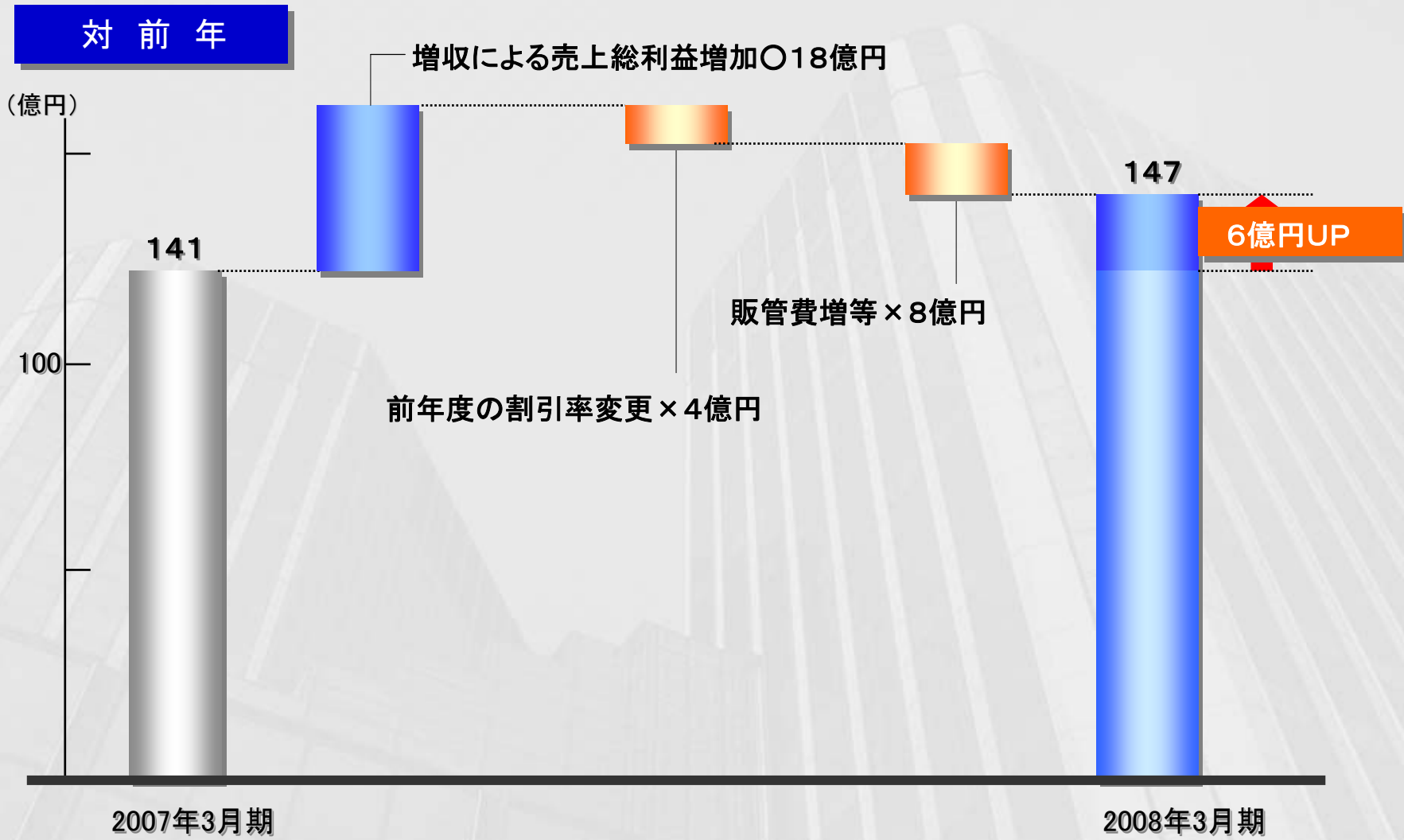
サービス・顧客業種別の売上高 (2008/03期見通し)



(億円)

サービス/業種	2007/3期 (実績) A	2008/3期 (見通し) B	対前年 差異 B-A	コメント
業務ソリューション	786	820	+ 34	
産業・流通・サービス	361	390	+ 29	製造業向けを中心に拡大
金融	249	260	+ 11	メガバンク、郵政を中心に拡大
社会公其他	176	170	- 6	
基盤ソリューション	222	240	+ 18	保守・エンジニアリングで成長
ビジネスサービス	390	410	+ 20	一般市場向け拡大
単独計	1,398	1,470	+ 72	
子会社等	167	180	+ 13	
合計	1,565	1,650	+ 85	

2008年3月期 連結営業利益分析



2008年3月期 上下別連結業績見通し

(億円)

	2007/3期(実績)		2008/3期(見通し)		対前年差異	
	上期 A	下期 B	上期 C	下期 D	上期 C-A	下期 D-B
売上高	701	864	750	900	+ 49	+ 36
業務ソリューション	394	532	420	550	+ 26	+ 18
基盤ソリューション	121	124	130	130	+ 9	+ 6
ビジネスサービス	186	208	200	220	+ 14	+ 12
売上総利益 <売上総利益率>	145 <20.8%>	188 <21.8%>	158 <21.1%>	189 <21.0%>	+ 13 <+ 0.3%>	+ 1 <- 0.8%>
販管費	-94	-98	-100	-100	- 6	- 2
営業利益	51	90	58	89	+ 7	- 1
経常利益	52	92	60	90	+ 8	- 2
当期純利益	30	51	31	52	+ 1	+ 1
期首受注残高	380	479	440	—	+ 60	—

主要施策

- 組織的システム開発技術力の強化
- 営業力の強化
- サービス事業の育成
- BCM(Business Continuity Management)の推進
- 外部人材マネジメントの推進

顧客・プロジェクト構造の変革

- 業種・顧客の選択と集中
- 大規模・高付加価値ビジネスへのシフト
- プロダクトからエンジニアリング・保守へのシフト

2008年3月期の主要施策

① 持続的成長軌道の確立

- 基盤エンジニアリング力の活用

② システム開発技術力の強化

- プロセス標準化
- 共通開発環境の整備

③ 事業基盤の強化

- BCM(Business Continuity Management)
- 外部人材マネジメント
- 教育プログラムの充実

④ 活力と魅力溢れる会社創り



NS Solutions

当社の事業成長を牽引するIT基盤事業

新日鉄ソリューションズ株式会社

TCO (Total Cost of Ownership)の一層の削減

- サイロ型システムの個別最適化の限界
- 運用コストの増大

日本版SOX法など規制対策

- 分散化したIT基盤の共通化の重要性大

ビジネス変化のスピードに追従可能なIT基盤

- 負荷の変動に追従できるシステム
- システム変更そのものに対応可能なシステム

当社の基盤エンジニアリング力の特徴

SLC (System Life Cycle) トータルソリューション

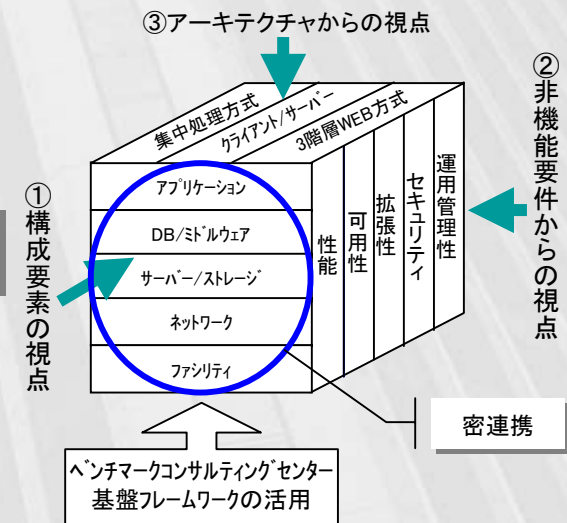
- アプリケーション・IT基盤・運用を一体的に提供
: ユーザ視点に立ち、アプリケーション、IT基盤、運用をシームレスにエンジニアリング
- ITシステムの3つの視点による最適化
: 構成要素 + アーキテクチャ + 非機能要件の3つの視点によるシステム最適化

最先端製品の評価・検証と利用技術担保、 確立されたエンジニアリング方法論による確実なプロジェクト実行

- 製品評価 (RAC (Real Application Clusters) ソリューションセンターなど)
- 性能評価 (Benchmark & Consultation Center)
- 方法論・ツール (基盤フレームワーク)

ユーザ視点でのシステム設計とベンダーコントロール力

- マルチベンダーでベストミックスのシステム設計と、
複数のベンダーをコントロールするプロジェクト実行力



NSGUC(NS Solutions Grid & Utility Computing Center)を設置

- グリッド技術と仮想化技術の実証センター(国内最大級)
- 2005年12月 システム研究開発センター内に設置

グリッド技術の研究・活用

- ビジネスグリッド技術
 - 企業全体(データセンター内)におけるコンピュータ資源の有効利用ニーズ
- ハイパフォーマンスコンピューティング技術
 - 金融系ニーズ
 - 科学技術計算ニーズ(東京大学「ATLAS実験地域解析センター」様にグリッド・システムを納入済み)

仮想化技術の研究・活用

- 分散されたプラットフォームの統合
- 単一・統合プラットフォームの分割活用

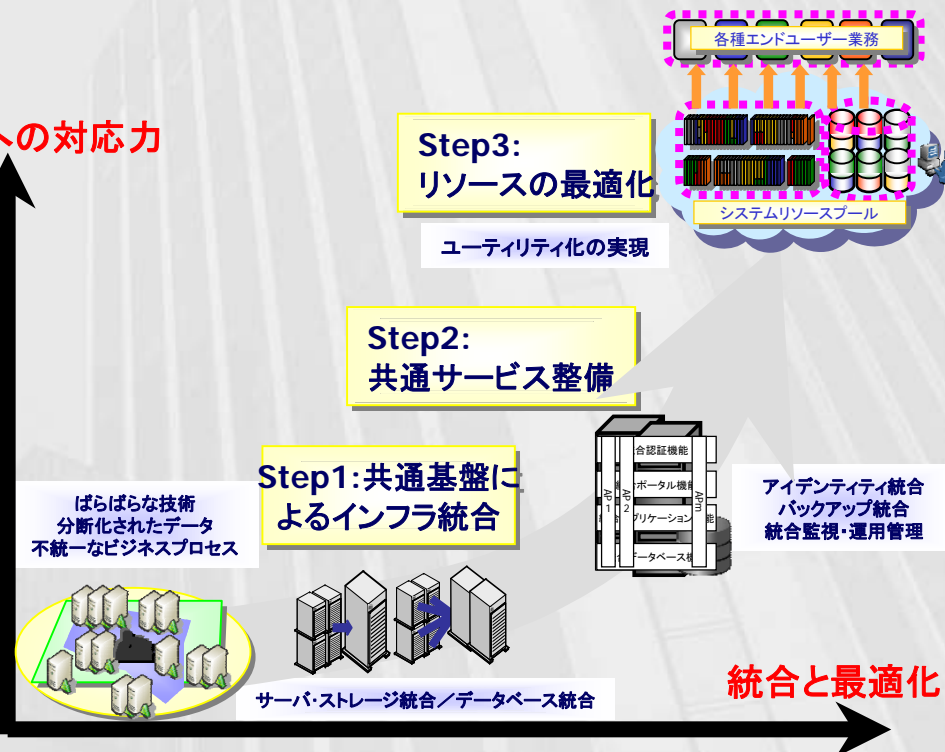
グリッド型IT基盤設計・構築の次世代工法(「NSGRANDIR」※1)

- 最適な基盤プロダクトの組み合わせ
- 当社独自の基盤フレームワークの適用
- NSGUCにおけるグリッド技術の検証成果の活用 ※2



- 可用性・セキュリティ・運用管理性
・スケーラビリティを備えたシステムを
工数ミナムで設計・構築

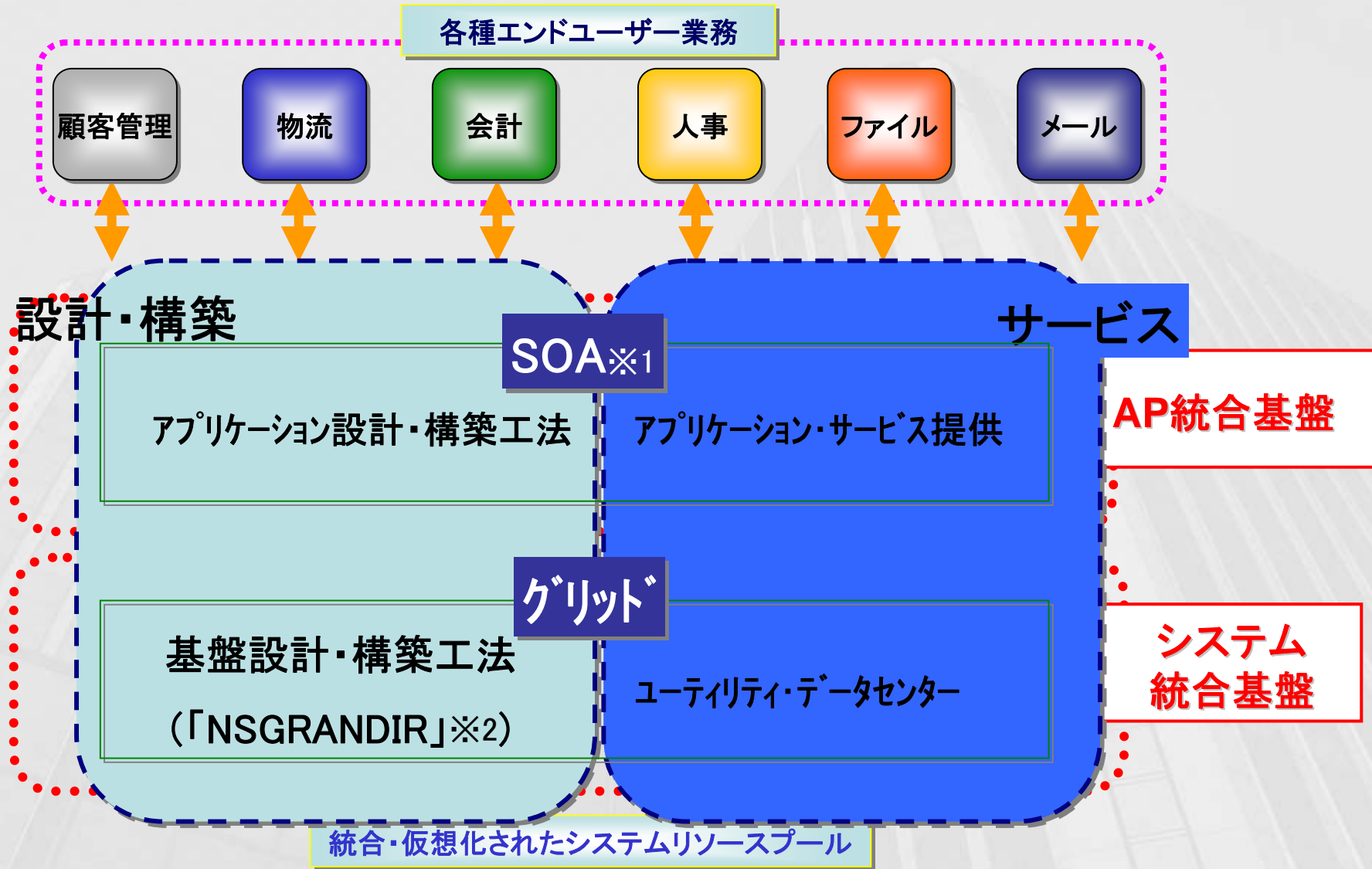
変化への対応力



※1 NSGRANDIR:
NS Solutions Grid And Dynamic Infrastructure

※2 NSGUC: NS Solutions Grid & Utility Computing Center

設計・構築からサービス提供まで



- 第1データセンターの自己資産化(2006年9月取得)
- 大連開発センターの開設
(大連華信計算機技術有限公司
とのラボ契約(数量保証契約)の締結)
- 第4データセンターの設置(2007年4月稼動)

- ◇安定配当と将来の事業拡大等に備えた内部留保の確保
- ◇史上最高益を更新
- ◇株主への利益還元



1株当たり年間配当金を増配する計画

平成18年度
35.00円



平成19年度
40.00円

本資料には当社又は当社役員の当社の営業成績及び財政状態に関する
図、意見又は現時点の予想と関連する将来予想が記載されております。従っ
て、この将来予想は、歴史的事実でも将来の業績を保証するものでもないため、
リスクと不確定な要素を含んでおります。実際の業績は様々な要因により異な
る可能性があります。当社は、この将来予想を、これらの変化要因を反映する
ために修正することを保証するものではありません。



<http://www.ns-sol.co.jp/>

NS Solutions、NSロゴ、Benchmark & Consultation Center、NSGUC、NSGRANDIRは、新日鉄ソリューションズ株式会社の商標又は登録商標です。
その他、資料中に記載の会社名・製品名は、それぞれ各社の商標又は登録商標です。